

# かわさきTMO通信

<毎月おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです>

## 2012・2月号 No.39

- 国際化アンケート調査結果
- イベントサミット開催
- JR川崎駅整備について

発行元：川崎商工会議所  
 発行責任者：副会頭 深堀和子  
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克  
 発行日：2012年2月25日  
 発行部数：1,000部  
 ◆連絡先  
 TEL：044-540-3904  
 FAX：044-540-3900  
 E-mail：  
 : sasahara@kawasaki-cci.or.jp  
 「まちづくり情報交換誌」を目指して  
 います。タウンマネージャーにお気軽に  
 情報をお寄せください。  
 ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

### ◇国際化アンケート調査

「川崎駅周辺地区を国際化に対応できる街に」という視点から考えてみようというプロジェクトをスタートしています。

川崎に近接する多摩川の対岸での羽田空港が国際化にむけて大きなインパクトとなることは明らかです。しかし、川崎駅周辺地区としてのその対応が特になされてはいないのが現状です。そこで、現状把握として、国際化の最前線となる市内のホテルにアンケート調査を行いました。その後、商店街及び大型店の国際化へのアンケートを実施しております。また、二月二十九日に「川崎駅周辺地区の国際化に向けて」と題するシンポジウムを開催しました。シンポジウムの成果及び商店街・大型店のアンケート等を含めてTMO通信特別号としてまとめて報告いたします。

本号では、市内ホテルの国際化の現状を報告します。アンケートは市内ホテル十七に配布され、内七ホテルから回答を得ました。回答ホテルの平均をとると百四十室、宿泊者数四万五千五百五十名、内外国人宿泊者数は二千九百人となり、外国人宿泊率は六・三%

となります。

回答七ホテルの平均

客室数 九百七十二室

年間宿泊者数 四万五千五百四十九

外国人宿泊者 二千八百九十四名

外国人宿泊者比率 六・三%

国籍別でみると中国人が二十七%と最も高く、次いで欧州、その他アジア(中国と韓国を除いたアジアの国)、米国が十八%、十八%、十七%を占めてほぼ同じ割合となっています。韓国は十二%で、以上の五地域・国で全体の九十二%を占めていました。

国籍別宿泊者割合

中国 二十七%

欧州 十八%

その他アジア 十八%

米国 十七%

韓国 十二%

その他 八%

宿泊外国人の宿泊日数は、三〜六日の宿泊が五十一%と半数を占めており一週間以内となっている。次いで、一日〜二日の短期滞在で三十六%で、七日以上は九%ある。

外国人宿泊日数

三〜六日 五十一%

一〜二日 三十六%

七日以上 九%

その他 四%

今後の外国人宿泊者の影響としては、羽田空港国際化、外国人の宿泊者数の増大、さらに中でも中国人宿泊者の増大を回答ホテルすべてで予測しています。また、増大する宿泊者のうち、外国人ビジネスマンの増大を予測するホテルが五ホテル、外国人観光客の増大を予測するホテルは、三ホテルとなっており、川崎での国際化の本身は、観光よりもビジネスを優先させたものであると予測しています。

外国人宿泊者増大 七ホテル

中国人宿泊者増大 七ホテル

羽田空港国際化影響大 七ホテル

外国人ビジネス客増大 五ホテル

外国人観光客増大 三ホテル

今後の国際化対応として、外国人向けの案内パンフレットの整備、市内での飲食店の国際化対応を強く求めており、そのほか、街の案内板の外国語対応、外国人観光客の相談窓口の開設などが求められています。

街の国際化対応は、まだ途に就いたばかりですが、本アンケートをベースに検討をすすめていきます。

(タウンマネージャー 笹原克)

## ◇イベントサミット開催

第七回イベントサミットが二月二十八日に産業振興会館内で開催されました。会議には、十五のイベント団体、八社の大型商店、三社の情報報道関係会社、三行政団体が出席して行われました。

会議では、各イベントの本年度の報告が行われ、意見交換がなされました。意見としては、「イベントの相乗効果」をどのように出していくか。「イベント全体のマーケティングのつくり方」、「統一テーマでの開催」、「イベント間の回遊性をつくる」、「JR川崎駅東西間の回遊性」などが議論となり、来年度の各イベントへの提言となりました。



(タウンマネージャ 笹原克)

## ◇JR川崎駅整備について

JR川崎駅周辺地区は、平成十八年に策定された「川崎駅周辺総合整備計画」に基づいて行われており、西口駅前広場、東口駅前広場の整備が行われてきています。さらに、北口自由通路の整備が川崎市より素案が提示され、都市計画素案説明会が開催されました。あわせて、川崎駅の北口改札口、中央北改札口の新設、及び駅舎の上部に3層の店舗（駅なか店舗及びB E）の新設が公表されました。三階部分は、現在の改札口がある階ですが、改札口、いわゆる駅なか店舗とコンコースで構成されています。四階と五階は、B Eの増築部分となります。



これらJR川崎駅の整備のスケジュールを見ると北口改札口、自由通路、商業施設の完成は、平成二十九年度となっており、概ね現在から五、六年度といえます。平成二十七年中に中央北改札口が先駆けてできます。これは、現在の中央改札口の向かい側の北側に改札口ができることと内rます。

かわさきTMOの考え方は、最初に現在の川崎駅のプラットホームが朝夕のラッシュ時には大変な危険な状態になっているという認識を持っていきます。いつ大きな事故が起きないとも限らない状態で、これは、喫給の改善がなされる必要があります。その意味で、示された川崎駅北口整備におけるスケジュールで本当に間に合うのかという疑問です。川崎駅西口では、大型事務所ビルが建設中で完成後は約七千人以上の浄業者が発生します。また、幸病院、キャンノン研究所などの完成も見えています。それら新しい川崎駅利用者が増加した場合には、さらにその危険性は高まることとなると思われます。その意味でも、川崎駅南口改札の新設を提案しています。

(タウンマネージャ 笹原克)

## ◇事務局便り

最近「川崎のイメージ」が随分と変わってきたと感じます。五十歳以上の方々からは公害の街、工場の街、競輪競馬の街などのイメージですが、若い人（二十歳以下？）には、これら公害とか工場とか競輪・競馬のイメージではなく、おしゃれな住宅地（田園都市線沿線のイメージ）、音楽の街（やつと浸透して）、魅力的な買い物ができる街（ラゾーナの影響が大きい）、アクティブな工場夜景がかっこいい街などとなります。

また、外国の方々にとっても、随分と違うイメージがあります。外国の方にとって「住みやすい街」という評判を聞きます。交通が便利、いろいろ安い、住んでいる人が親切、行政の外国人へのサービスが一番充実している等です。外資系も、羽田空港との近接性、東京、横浜との近接、東京に比べて事務所コストが安いなどから、川崎の評価が高くなっています。かわさきTMOとして、これら新しいイメージをしっかりとつかみ、より魅力的な街、そして商業空間づくりをめざしてまいります。

(かわさきTMO事務局)